



# 営農NEWS



果樹のチャバネアオカメムシの多発生が続いています。果樹園への飛来に十分注意してください。また、ナシヒメシンクイ第三世代幼虫の適期防除を徹底してください。

ナシ、カキ、ブドウ、リンゴなどの果実を吸汁加害するチャバネアオカメムシの多発生が続いています。

病害虫発生予報 7 月号および病害虫防除所 HP フェロモントラップ・予察データによりますと、7 月第 1 半月現在、越冬成虫の総誘殺数は、過去 11 年中 2 位と平年より多くなっています。また、一部のナシ及びブドウ園場で、成虫の飛来が確認されています。今後はさらに果樹園へ飛来して、果実を吸汁加害する恐れがありますので、常に園内を注意深く観察し、カメムシの侵入を確認したら下記を参考に薬剤防除に努めてください。

なお、カメムシの活動は夜温が高いと活発となりますので、その翌朝に園内をよく観察し、飛来を確認したら活動が鈍い早朝（又は飛来の多い夕刻）に薬剤散布を行ってください。防除薬剤は、収穫前日数（有袋や無袋で異なる場合があります）に注意して選択し、系統の異なる薬剤でローテーション散布してください。また、散布に際しては園の周囲に飛散（ドリフト）しないよう十分な注意が必要です。

各薬剤とも直接虫体にかかれば殺虫効果は高く、効果の持続期間がピレスロイド系、ネオニコチノイド系の薬剤で 5～10 日程度、有機リン系薬剤で 2～3 日程度とされています。なお、ピレスロイド系薬剤は、天敵類に影響して、ハダニやカイガラムシ類の多発生を招くことがありますので、散布後には注意する必要があります。

表 1 果樹カメムシ類の主な防除薬剤（平成 26 年 7 月 16 日現在）

薬剤名	系統名	ナシ	カキ	ブドウ	リンゴ
MR. ジョーカー水和剤	ピレスロイド	○	○		○
アグロスリン水和剤		○	○		
テルスターフロアブル		○	○		○
ロディー水和剤		○	○		
スタークル顆粒水溶剤	ネオニコチノイド	○	○	○	○
アクタラ顆粒水溶剤		○	○		○
ダントツ水溶剤		○	○	○	○
バリアード顆粒水和剤		○			○
スミチオン水和剤 40	有機リン	○	○		○
キラップフロアブル	フェニルピラゾール		○		○

注) ブドウでは、果粉溶脱の恐れがありますので、薬剤使用上の注意事項などを必ず確認してください。

また、ナシヒメシンクイは年間 3～4 世代を繰り返す、ナシでは 7～9 月の密度が最も高くなります。

病害虫発生予報 7 月号によりますと、発生量はやや多く、第三世代幼虫の防除適期は、平年より早く 7 月中旬～下旬と予測されていますので、「赤ナシ無袋栽培病害虫参考防除例」を参考に、確実に薬剤防除を実施してください。

なお、ナシヒメシンクイの被害果を見つけたら園内に放置せず、速やかに圧殺や蒸し殺し、土中深く埋めるなど適切な処分を行って、次世代成虫の発生を防いでください。

薬剤防除にあたっては下記を参考に、ナシの収穫前日数に十分注意して丁寧に散布してください。

表 2 ナシ シンクイムシ類の主な防除薬剤（平成 26 年 7 月 16 日現在）

薬剤名	希釈倍率	使用時期 / 使用回数
MR. ジョーカー水和剤	2,000 倍	収穫 14 日前まで / 2 回以内
ディアナWDG	5,000～10,000 倍	収穫前日まで / 2 回以内
スカウトフロアブル	2,000 倍	収穫前日まで / 5 回以内
オリオン水和剤 40	1,000 倍	収穫 3 日前まで / 2 回以内
ロディー水和剤	1,000～1,500 倍	収穫前日まで / 2 回以内
バリアード顆粒水和剤	2,000～4,000 倍	収穫前日まで / 3 回以内
ダイアジノン水和剤 34	1,000 倍	収穫 14 日前まで / 6 回以内
アディオオン乳剤	2,000～3,000 倍	収穫前日まで / 2 回以内
フェニックスフロアブル	4,000 倍	収穫前日まで / 2 回以内
ハチハチフロアブル	1,000 倍	収穫 14 日前まで / 2 回以内
サムコルフロアブル 10	5,000 倍	収穫前日まで / 3 回以内

農薬を使用する際は、ラベルに記載の登録内容、使用法、注意事項などを確認し、飛散に注意して使用して下さい。



生産資材部 営農企画課

電話：029-291-1012 FAX：029-291-1040